

東洋システム

70センチ間口シリーズ

ハイテム
サルメット
順調に伸びる



70センチ間口のウイスクを採用した関東地区の農場の鶏舎外観



間口がゆったり感じられる70センチ間口シリーズ（中部地区農場）

東洋システム(株) (安田) していた70センチ間口のハイテムサルメットベルトケージを四年前に発表し、各務原市金園団地九七一丁を四年前に発表し、四、(岡) Onoda 83・二年前にそのシステムの導入(白鳥) である。七〇センチ間口の場合、奥行きは五六センチで、ナダなどを採用がはまり、中野地区、生活スペース

ス三九二平方センチ、赤玉鶏九羽(同四三六平方センチ)が標準収容羽数になるが、いずれの養鶏農場からも五〇センチ間口ケージと有意味のない成績が報告されている。

日ロではケージを使用する場合、動物実験の関係から三〇二二年の設備でテストが取り付けられる二四間口仕様が一般的になりつつある。この場合の一ケージ当たり羽数は二千羽前後になるが、一ケージ当たりの羽数増加による成績変化は見られな

れないと言われている。これは最近のトリの群飼性能が向上しているためと考えられるが、東洋システムでは、メインシリーズの五〇センチ間口に加えて、今後、羽当たり設備投資コストが有利な七〇センチ間口ケージのシリーズ化(ウイスク、エアバイン)をたくして鶏舎設備の排気乾燥設備セコフとのドッキングで乾燥を行なうクリーンシリーズなども力を入れている。